論文審査の結果要旨

論文題名：
乳児を持つ母親の育児リカバリー経験尺度の開発

申請者氏名：伊草　綾香

審査の所見

＜論文課題概要＞

本研究の目的は乳児を持つ母親の育児ストレスの増大を防ぎ、育児支援方法の検討に資することである。育児におけるリカバリー経験を「育児によって生じるストレスフルな体験によって消費された心理社会的資源を元の水準に回復させるための活動及び経験」と定義し、育児リカバリー経験尺度（Parenting Recovery Experience Questionnaire:以下P-REQ）の開発を行った研究である。

＜研究内容＞

研究 1 では予備調査により育児リカバリー経験尺度の構成概念を確認し、原案を作成した。先行研究から P-REQ の 40 項目を作成し、インターネット調査会社にモニター登録している乳児を持つ母親を対象にオンライン調査を実施し、その結果 100 名から有効回答を得た。項目分析により 31 項目に絞り、探索的因子分析の結果「心理的距離」「サポートの実感」「育児の熟達」の 3 因子 25 項目が抽出され、これを P-REQ 原案とした。

研究 2 では P-REQ 原案を用いて、インターネット調査会社にモニター登録している乳児を持つ母親を対象にオンライン調査を実施し、確証的因子分析により項目の精選を行うとともに、構成概念の確認を行った。さらに、ストレスの状態を評価する K6、育児に対する自己効力感を評価する Karitane Parenting Scale(KPCS)、子どもに対するボンディングの状態を評価する日本語版 Mother-Infant Bonding Scale(MIBS-J)との相関により基準関連妥当性の検討を行った。

その結果、300 名から有効回答を得、母親の年齢は平均 32.4 歳、標準偏差は 4.4 歳であった。項目分析により 17 項目に絞り、探索的因子分析を行い得られた 3 因子 13 項目について確証的因子分析を行い、修正指数と改善度を参考にさらに項目を削除しモデルの改善を行った。最終的に 3 因子 11 項目からなるモデルが得られ、適合度指数は GFI=0.952、AGFI=0.922、CFI=0.955、RMSER=0.061 と良好であった。ただし、研究 1 で「サポートの実感」と命名した因子は「周囲のサポート」に変更した。

信頼性については Cronbach の α 係数による検討を行い、心理的距離：0.758、育児の熟達：0.771、周囲のサポート：0.792、全体：0.816 と内的整合性の観点から概ね高い信頼性が示された。基準関連妥当性については、11 項目の合計点を尺度得点として K6、KPCS、MIBS-J との相関係数（r）を求め、それぞれ 0.395、0.503、-0.323 でいずれも事前に仮定した関係が確認された。

＜科学的到達・新規性＞

審査においては、「リカバリー経験」に注目したこと、産業保健分野の「リカバリー経験」の概念を育児中の母親に適用したこと、元の尺度にない「育児の熟達」「サポート」

に関する項目を入れて原案を作成したことについての理由、調査会社を介したオンライン調査についての依頼からデータ収集までの具体的な方法、対象の特性による本調査の限界、尺度の活用可能性等について質疑が行われ、いずれも妥当な回答が得られた。

＜発展＞

サンプル数が少ないこと、対象（オンライン調査のモニター）の影響が考えられることから、今後対象者を増やし、乳児を持つ母親のリカバリー経験を測定する尺度としての一般化を図ることで活用の可能性が高まると考える。

育児中の母親のストレスを軽減させる支援として「リカバリー経験」の概念の適用により新たな方向性の支援が期待できる有用な研究である。

以上のことから、本論文は博士（健康科学）の学位授与に値するものとして認める。

【審査員】

主査： 埼玉県立大学大学院　保健医療福祉学研究科 教授 鈴木　幸子

副査： 埼玉県立大学大学院　保健医療福祉学研究科 教授 大木　いずみ

副査： 筑波大学 医学医療系教授　安梅 勅江